

水圏環境の保全及び水圏生物の資源生態に関する研究



副学長補佐(教育、入試、研究、地域連携・国際交流
企画・評価担当)
環境学部 環境学科
大学院 環境経営研究科 環境学専攻
准教授

太田 太郎
OHTA, Taro

SDGs 関連項目



● 研究内容

我が国は四方を海で囲まれ、陸域には無数の河川が流れている。このため、我々日本人の生活は、古来、水圏を利用することにより発展してきた。一方で経済活動の活性化に伴う生活水準の向上と相反し、水圏環境の荒廃が今日的な課題となっている。特に水圏生物は食糧資源としても利用されており、これらの保全や管理のあり方を検証することは持続可能な社会を構築する上でも極めて重要である。水圏生物の生態やこれらを取り巻く水圏環境についての研究を行うとともに、漁船漁業や養殖漁業の技術開発にかかる具体的な課題についても研究を進めている。

● 想定パートナー

自治体、漁業、養殖業

● 応用分野

効率的な漁業・養殖業の推進、水産資源の管理、水圏の環境保全

● 取組実績

- ・日鉄エンジニアリング、日本水産、弓ヶ浜水産、等：大規模沖合養殖システム実用化研究(「知」の集積と活用の中場による革新的技術創造促進事業)(2017～2020年度)
- ・鳥取県漁業協同組合、鳥取県農林水産部水産振興局 等：鳥取ブルーカーボンプロジェクト実行委員(2022年度～)
- ・鳥取県栽培漁業センター、千代川漁業協同組合、等：鳥取県東部におけるアユの資源回復に関する取り組み(2016年度～)
- ・鳥取県沖合底曳網漁業協会、鳥取県漁業協同組合、鳥取県農林水産部水産振興局等：資源管理手法検討部会(水産庁)の鳥取県参考人(2021年度～2023年度)
- ・日本海テレビ等：海と日本のプロジェクトin とっとり アドバイザー(2017年度～2023年度)